

I いつも主の十字架の恵みを覚え、感謝する教会

今週は受難週である。

約2016年前の今週の金曜日に、何の罪もない主が、私達の罪（不品行、汚れ、憎しみ、恨み、悪口、陰口、うそ、ありとあらゆる悪）の為に、十字架で私達の身代わりに死に、私達が受けるべき罪の刑罰を身代わりに受けて下さった。

その恵みの故に、私達が主を信じると罪が赦され、永遠の命、新しい命、新しい人生、地上で死を迎えても、天国に行ける恵みを与えて下さる。

主の十字架の苦しみは、私達の想像を絶する苦しみだった。今週の受難週は、主の苦しみと主の恵みを深く覚え深く感謝しつつ生活したい。

II 地上で死を迎えた人を丁重に葬る教会。

「アブラハムは、その土地の人々におじぎをし、その土地の人々の聞いているところで、エフロンに告げて言った。『もしあなたが許してくださるなら、私の言うことを聞き入れてください。私は畑地の代価をお払いします。…そうすれば、死んだ者（愛する妻サラ）をそこに葬ることができます。』」

**創世記23：12-13。**

神の民は、死んだ人々を葬る事、墓地を大切にした。死んだ人の魂、霊は、天の神の御もとに行く事、終わりの時、主の再臨の時、よみがえることを堅く信じていた。

自立した教会は、墓地を所有している。私が、5年前に当教会に就任し、最初の総会の時から墓地建設の要望が出ていた。

OMFの当初の開拓伝道は、会堂の前に、墓地が所有された。

墓地は大切である。神により土地のちりて造られた肉体は、地に葬られ地に帰される。

「ちり（私たち人間は、神により、土地のちりて形造られた。**創世記2：7**)はもとあった地に帰り、霊はこれを下さった神に帰る」**伝道者の書12：7。**

私達も親族も、神の時に天に召されます。いつかは分かりませんが備えが必要である。

聖書的に見て、墓地はただの墓地ではない。世の終わりの主の再臨の時、その墓地からよみがえるのです。ですから、クリスチャンにとり、墓地は暗く、怖い場所ではなく、主による復活を覚える希望の場所です。

「見よ。神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。また、墓が開いて、眠っていた（死んでいたの聖書的表現）多くの聖徒たちのからだが生き返った」

**マタイ27：51,52。**

「(主の再臨の時、終わりの日)ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり(栄光の体)、私たち(主が再臨された時、生きていた人々)は変えられる(罪のない栄光の体)のです」

**Iコリント15：52。**

現在の社会情勢として、各家族の事情で、お墓を御親族だけで守り続ける事が難しい時代となっている。そのような中で、主が建て上げられ続けておられる教会が、教会の墓地を持ち、途切れることな

く（主は新しい方々を加え続け主ご自身の教会を守られる）、大切に維持管理をして行く事は、教会員にも、ノンクリスチャンにも喜ばれ、良き証し（先祖を粗末にするわけではない）となる。

※教会の墓地に入るかは、それぞれの自由意志が重んじられる。

- ①御親族の墓地に入ることができる。
- ②御親族が別の教会に集っておられ、そちらの教会の墓地に入る事もできる。
- ③主の時が来た時、当教会の墓地に入ることが出来る。自由に選べる。

※墓地を建設する時であるが、主がすべての必要を満たして下さった時が、一番良いと考えられる。

「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある。生まれるのに時があり、死ぬのに時がある」**伝道者の書3：1,2。**

### Ⅲ 偉大で愛に満ちた神に祈り合い支え合う教会

1. 偉大で愛に満ちた神は、私達の祈り（神との交わり・感謝・正直な願い事・互いに祈り合う事）を、大いに喜ばれる。

「主はあなたがたに恵もうと待っておられ、あなたがたをあわれもうと立ち上がられる」

**イザヤ30：18。**

2. 神の答えには3つの答えがある。

- ①「はい」。祈ったものが与えられる。
- ②「いいえ」。これは、私達を拒否しておられるのではなく、今すぐには、私達には分からない、神の別のご計画がある。
- ③「待ちなさい」。あきらめなさい、祈り続けなさい。神の時が満ちて実現する。

「いつでも祈るべきであり、失望してはならない」**ルカ18：1。**

3. 祈りには3つの祈り方がある。

- ①神に個人的に祈る。神との静かな交わり

「イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた」

**マルコ1：35。**

- ②小グループで祈り合う。

「あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです」**マタイ18：19,20。**

- ③すべての聖徒の為に祈る。

「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目を覚ましていて、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい」

**エペソ6：18。**

「すべての聖徒のために」祈る為に、神は私達に知恵を与え、実践し易い方法を教えて下さる。

その一つが、多くの教会が用いている「祈りのしおり」である。

私達は、毎週、教会に集っても、祈りの課題を知らなければ、的を得た祈りをする事は出来ない。

「祈りのしおり」には、それぞれのメンバーが、自由意思で祈ってもらいたい課題を提出できる。

パウロは、いつも神に感謝し、他の人々の為に良く祈る人だった。

と同時に、彼は、「私のためにも祈ってください」（エペソ6：19，20）と依頼する人だった。主の教会は、祈ってもらう人と祈り支える人が決まっているのではない。互いに祈り支え合う共同体、神の家族である。

祈りは空しくない。祈りは力、大きな支え、神が働かれる力である。

「互いのために祈りなさい…祈りは働くと、大きな力があります」**ヤコブ5：16**。

主を中心に互いに祈り合いましょう。祈りは力です！